

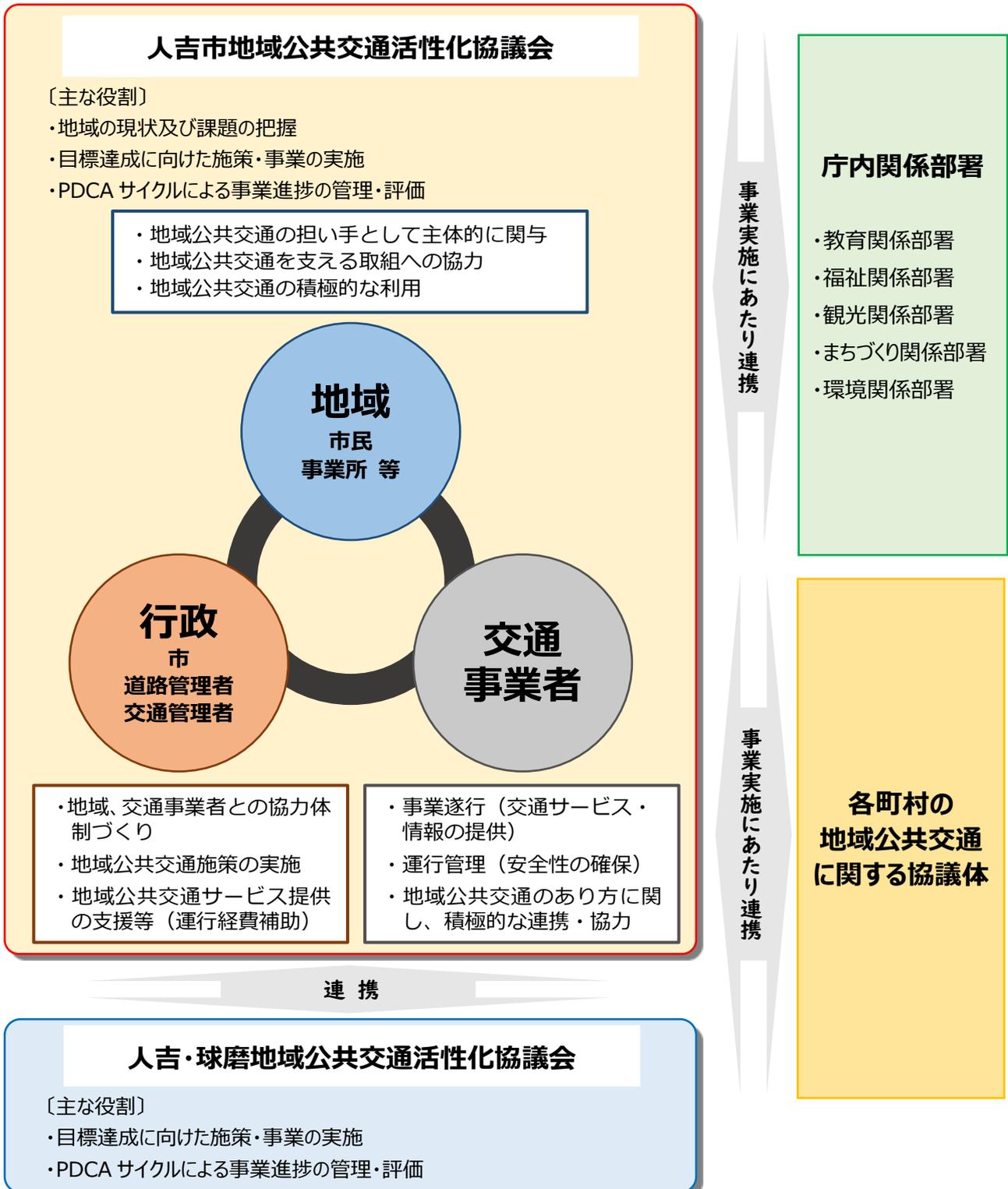
## 第8章 計画の達成状況の評価

### 1 推進体制

本計画の推進体制は、法定協議会である「人吉市地域公共交通活性化協議会」がマネジメント主体として、計画の推進及び施策・事業の進捗状況等の確認を行います。

なお、施策・事業の推進にあたっては、人吉球磨地域10市町村で形成する「人吉・球磨地域公共交通活性化協議会」との連携を図るとともに、必要に応じて各町村と調整・連携を図りながら取り組みます。

併せて、計画を推進し、目指す将来像の実現や目標達成にあたっては、行政のみならず、地域（住民・企業）や交通事業者と連携することが重要であることから、協働のもと取り組んでいきます。

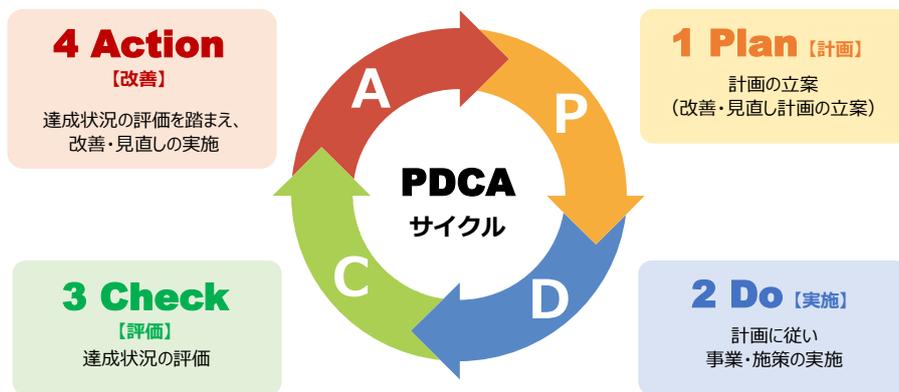


## 2 達成状況の評価と見直し

本計画は、目標及びその数値指標並びに目標値を設定しており、これらの達成状況を見ながら、計画の進捗状況を管理していきます。なお、地域公共交通を取り巻く環境の変化を踏まえ、適宜見直しを行い、計画最終年度において最終評価を実施するとともに、次期計画策定に向けた検討を進めていきます。

なお、施策・事業に対しては、適宜、その効果や課題等を検証するとともに、それらの結果を踏まえた改善を行うことで、目標達成に向けて取り組みます。

その他、毎年度、事業の進捗状況のモニタリングを実施するとともに、利用状況の把握や利用者・関係機関の声の定期的な収集を実施し、目標達成に向けて取り組んでいきますが、毎年度の取組目標等については、協議会で毎年度協議・決定します。



なお、毎年度のマネジメントに関しては、実施計画を作成し、事業の実施・評価・改善策の検討・見直しを行うことで、次年度の計画等に反映するなど、年度間管理を行います。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
PDCAサイクル	Do (実施)						Check (評価)	Action (改善) ※改善策の	Plan (計画) ※次年度計画	Do (実施) ※次年度準備を含む					
当年度予算	予算執行														
次年度予算	予算編成									議決					
議会	6月定例会			9月定例会			12月定例会			3月定例会					
	必要に応じ補正予算措置						次年度予算の議決								
人吉・球磨 地域公共交通 活性化協議会	会議開催 ・年間実施計画作成	その他必要に応じた会議開催						会議開催 ・次年度実施計画案作成 ・予算編成	会議開催 ・進捗状況の確認 ・次年度実施計画及び予算案の承認			年度末開催			
適宜報告・連携															
人吉市地域公共交通 活性化協議会	会議開催 ・年間実施計画作成	その他必要に応じた会議開催						会議開催 ・次年度実施計画案作成 ・進捗状況の確認	会議開催 ・次年度実施計画及び予算案の承認			年度末開催			

## 〔数値指標の評価方法等〕

目標	数値指標	評価時期	評価方法
<b>目標①：</b> 地域公共交通の再構築による利便性向上	数値指標①： 交通空白地	毎年度	交通空白地への地域公共交通導入状況より確認
	数値指標②： コミュニティ交通（まめバス、乗合タクシー）の年間利用者数	毎年度	交通事業者からの提供データを基に確認
	数値指標③： 地域内公共交通に係る収支率及び市の財政負担額	毎年度	市及び交通事業者からの提供データを基に確認
<b>目標②：</b> 市街地エリアにおける移動環境の向上	数値指標①： 日常生活における地域公共交通の利用率	最終年度	市民アンケート調査を実施し、日常生活における地域公共交通の利用状況を確認
	数値指標②： 高速バスとじゅぐりっと号の接続本数	毎年度	高速バスとじゅぐりっと号の運行ダイヤより接続状況を確認
	数値指標③： じゅぐりっと号の年間利用者数	毎年度	交通事業者からの提供データを基に確認
<b>目標③：</b> 地域公共交通に関する情報発信の強化	数値指標①： 地域公共交通ホームページのアクセス件数	毎年度	市ホームページへのアクセス件数を確認
	数値指標②： 地域公共交通利用方法の認知度	最終年度	市民アンケート調査を実施し、地域公共交通を利用しない理由「利用方法が分からない」の項目を確認
<b>目標④：</b> 地域公共交通に関する新たなサービスの導入による利便性向上	数値指標①： 観光客の地域公共交通機関利用率	最終年度	人吉球磨地域で実施する観光客アンケート調査結果を活用し、確認
	数値指標②： 地域間幹線系統路線バス等のICカード等利用率	毎年度	交通事業者からの提供データを基に確認
<b>目標⑤：</b> 多様な関係機関と連携した地域公共交通の利用機会の創出	数値指標①： 地域公共交通の利用頻度	最終年度	市民アンケート調査を実施し、日常生活における地域公共交通の利用状況を確認
	数値指標②： 地域と連携したイベント等の取り組み件数	毎年度	イベント等の取り組み状況より確認

〔施策・事業に対する効果等の検証方法〕

施策	事業	効果等の検証方法
コミュニティ交通の充実	①地域間幹線系統路線バスの見直しに併せたコミュニティ交通の導入	導入もしくは改善後、利用状況や利用者の声を把握し、利便性を検証。必要に応じて見直し実施  〔検証データ〕 ・利用者数：交通事業者提供データ ・利用者の声：乗り込み調査等を実施 ・その他：運行経費等についても確認
	②交通空白地への新たなコミュニティ交通の導入	
	③既存コミュニティ交通の地域の実情に応じた改善	
新たな地域公共交通の創出	①市街地エリアにおける新たな移動サービスの導入	〔検証データ〕 ・利用者数：交通事業者提供データ ・利用者の声：乗り込み調査等を実施 ・その他：運行経費等についても確認
	②じゅぐりっと号のサービス強化	
地域公共交通に関する情報提供の充実	①地域公共交通マップの作成	定期的に利用者の声等を把握し、更新のタイミング等に応じて適宜見直し実施  〔検証データ〕 ・利用者の声：関係機関からの意見収集、必要に応じてアンケート調査等を実施 ・その他：HP やサービスの利用実態
	②ホームページによる一元的な情報提供の実施及び広報周知	
	③MaaS などの新たな技術を活用した地域公共交通利用環境の構築	
地域公共交通に関する新たなサービスの導入・検討	①観光施設や宿泊施設と連携した地域公共交通 1～2 日フリー乗車券の導入	新たなサービス導入後、利用状況や利用者の声を把握し、利便性や改善点等を検証。  〔検証データ〕 ・利用者数：交通事業者提供データ、施設等の利用実態データ ・利用者の声：アンケート調査等を実施 ※乗車券へ QR コードの掲載など ・その他：費用面等についても確認
	②コミュニティ交通の料金体系の見直し	
	③交通系 IC カード等の普及・促進	
地域公共交通に関する多分野との連携	①保育園・認定こども園・幼稚園・小学校、高齢者を対象とした乗り方教室の実施	実施後、参加者の声を把握するとともに、その後利用状況などについても把握し、効果等の検証。  〔検証データ〕 ・参加者の声：アンケート調査等を実施、関係機関の声を収集 ・利用状況：定期的な乗り込み調査等もしくは交通事業者提供データによるモニタリング
	②多分野での意見交換会	
	③地域公共交通に関するイベント開催・地域公共交通と連携した地域でのイベント開催	